

5. 林産物の需給

(1) 木材の需給

平成20年の素材需要量は前年より34千 m^3 減少し221千 m^3 であった。このうち国産材は116千 m^3 、輸入材は105千 m^3 であった。

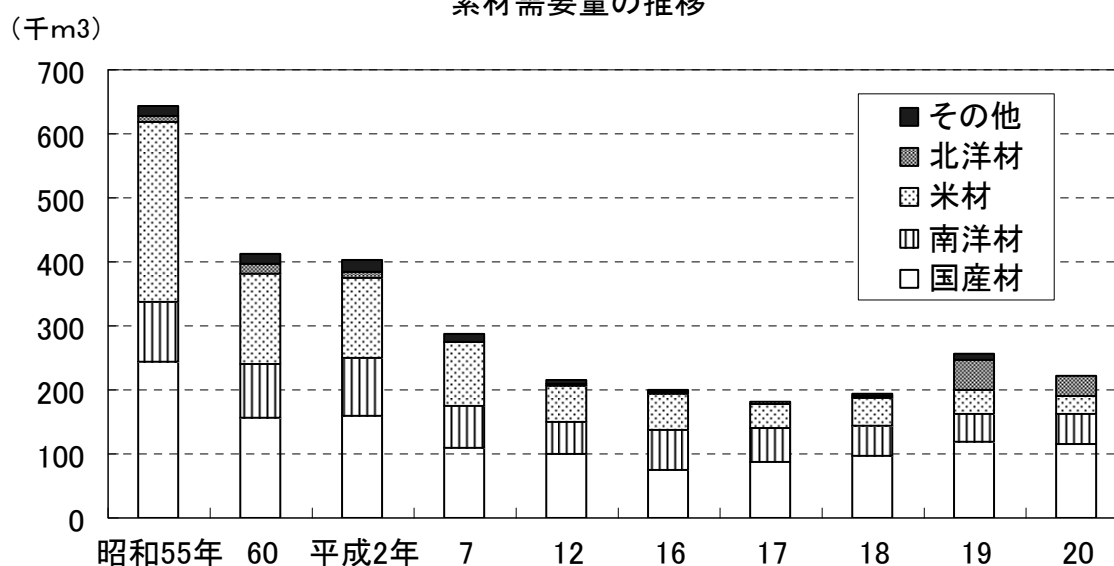
輸入外材のうち、42%が南洋材であり、北洋材、米材が各29%である。

県内素材生産量は、前年より11千 m^3 減少し86千 m^3 で、樹種別でスギ59千 m^3 、ヒノキ5千 m^3 、マツ2千 m^3 、広葉樹が20千 m^3 となっている。

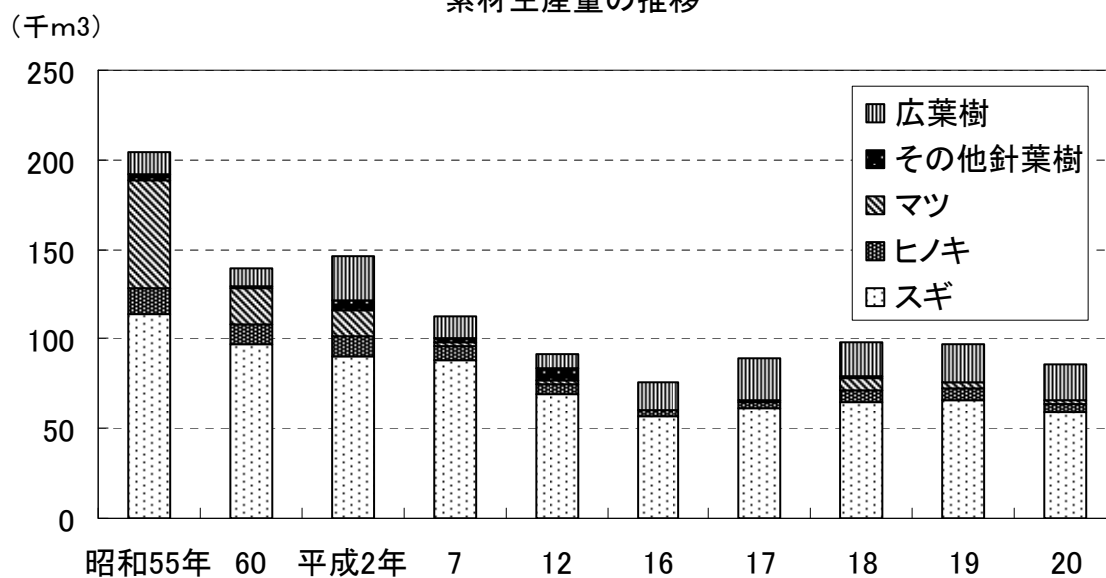
県内の素材生産を所有形態別にみると、国有林、公有林とも前年同様の各2千 m^3 、私有林は前年より11千 m^3 減少し、82千 m^3 であった。

県内の製材工場への素材の入荷量は84千 m^3 、製材品生産量は56千 m^3 となっている。

素材需要量の推移



素材生産量の推移



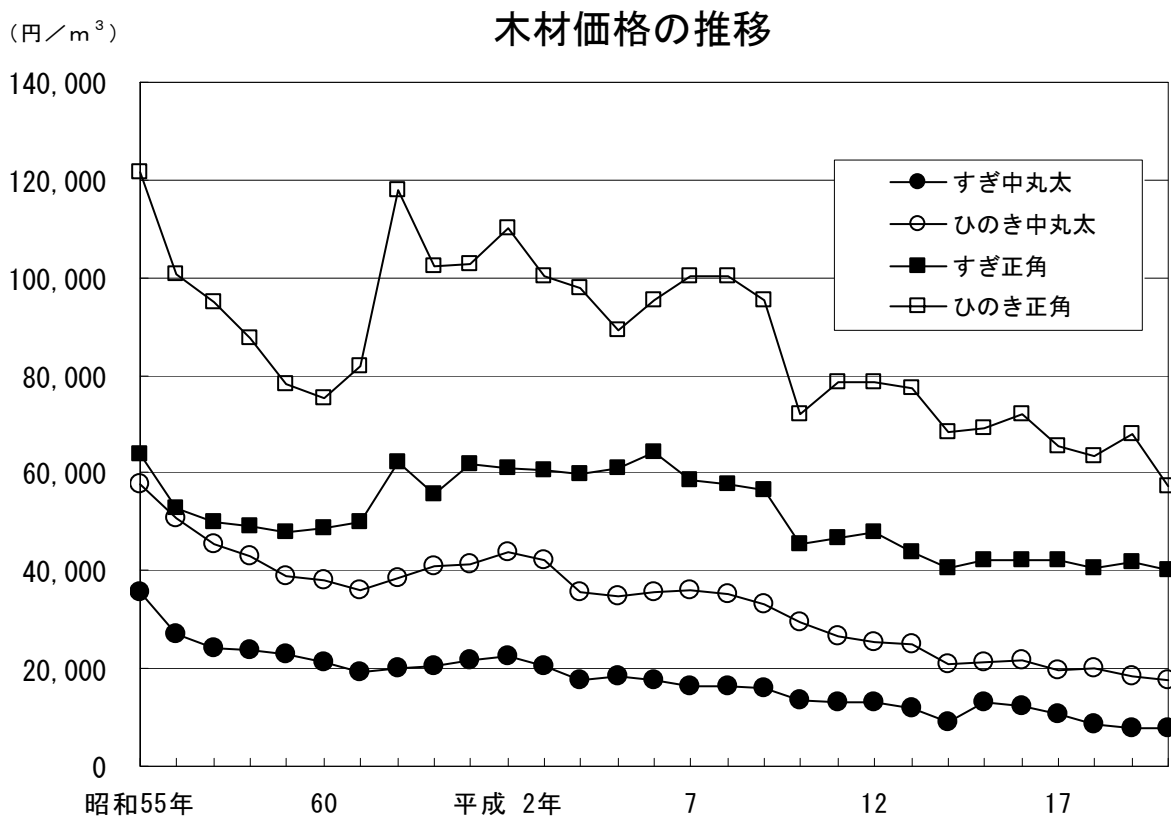
(2) 木材価格

昭和55年をピークに低迷を続けていた木材価格は、昭和62年から平成2年にかけて好調な住宅建設に支えられて緩やかに上昇したものの、平成2年の後半から円高による外材の大量入荷が続き低下傾向にある。

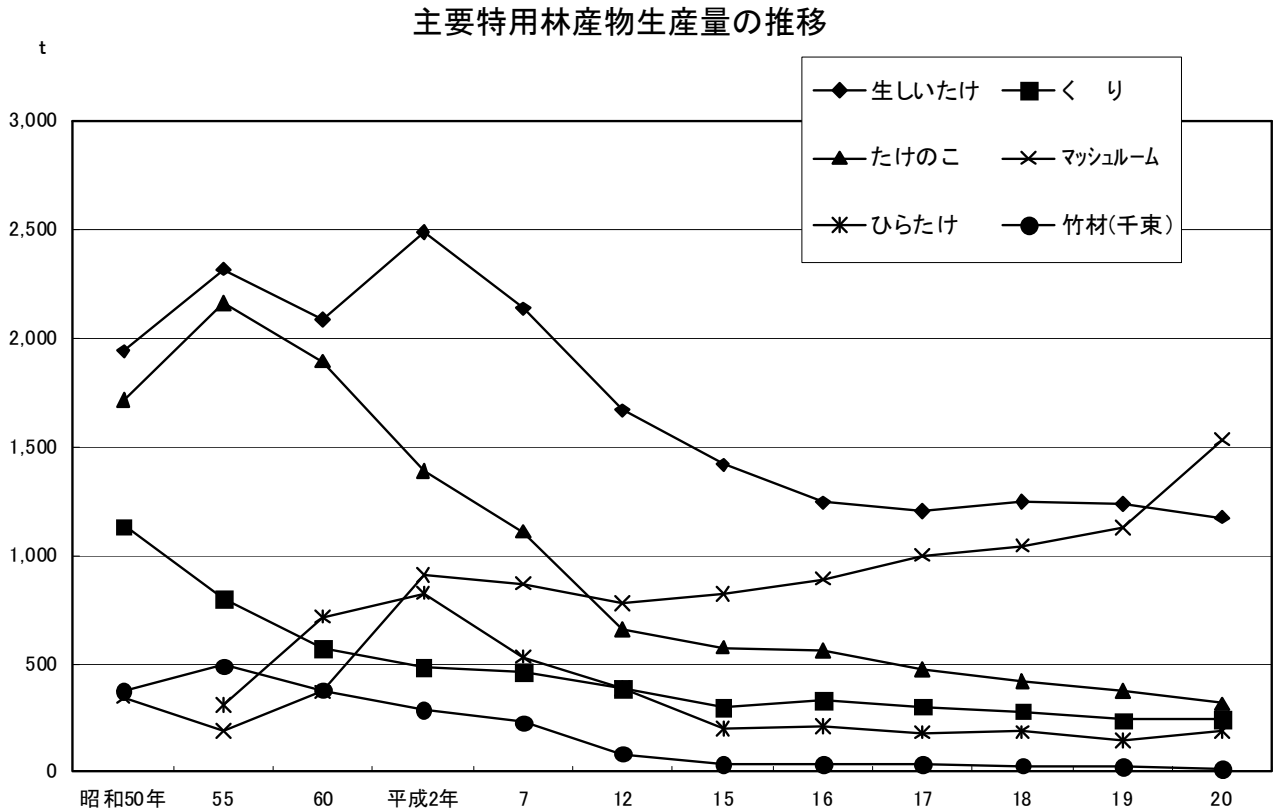
平成3年以降も景気の後退により低下傾向が続き、平成7～8年にやや持ち直したものの、平成10年には再び下落、以降低迷している。

平成20年の素材の平均価格は、スギ中丸太が7,667円/m³で前年から125円、ヒノキ中丸太が17,667円/m³で前年から666円下落している。

製材品は、スギ正角（10.5cm角、長さ3.0m）が40,083円/m³で前年から1,667円、ヒノキ正角（10.5cm角、長さ4.0m）が57,250円/m³で10,750円下落している。



(3) 特用林産物の需給



(注) 竹材生産量の単位は千束

本県の特用林産物は、シイタケ・マッシュルーム・ヒラタケ等のきのこ類を中心に、タケノコ・ワラビ・ゼンマイ等の山菜類、クリ等の樹実類、竹材等の竹類、シキミ・サカキ等の特用樹等と多種にわたっている。

生産量を作物別に見ると、生シイタケは前年比5%減の1,177t の生産となった。地域別では千葉が285t と最も多く、次いで夷隅・君津・山武の順となっている。

マッシュルームは香取・海匝地域において、対前年比37%増の1,536t 生産されている。

ヒラタケは、対前年比30%増の186 t となっている。

タケノコは生産者の減少、獣害により前年比7%減の346 t の生産となった。地域別に見ると夷隅地域が最も多く208 t、次いで長生・安房の順となっている。特に、夷隅地方は早出しタケノコの産地として知られている。

樹実類ではクリが、対前年比0.8%増の241 t となった。

竹類は生産者の高齢化、需要の減少に伴い対前年比32%減の17千束となっている。